

漁海況月報

令和6年10月7日

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

1 海況

○ 黒潮流路

9月26日の人工衛星画像によると、黒潮は大蛇行流路を継続し、御前崎沖北緯31度付近から石廊崎沖北緯34度へ向かって北上するA型流路となっている(図1)。

○ 渥美外海の状況

黒潮の北上部は、東へ移動しており渥美半島から離岸傾向にある。渥美外海の海面水温は、黒潮系暖水の波及が継続している影響で高温傾向が続いている。また、渥美外海の沿岸付近は緩やかに東へ流れていると考えられる。

○ 予想

現在、流路変動に影響する黒潮流量の指標となるトカラ海峡(名瀬-西之表)の潮位差は高水準で推移しているが、潮岬沖の冷水渦の勢力が大きいことから今後も大蛇行流路が継続すると考えられる。

(参考: 潮位データを用いた黒潮モニタリング; <https://ovd.aori.u-tokyo.ac.jp/tides/time2.html>)



図1 海況の現況[2024年9月26日]

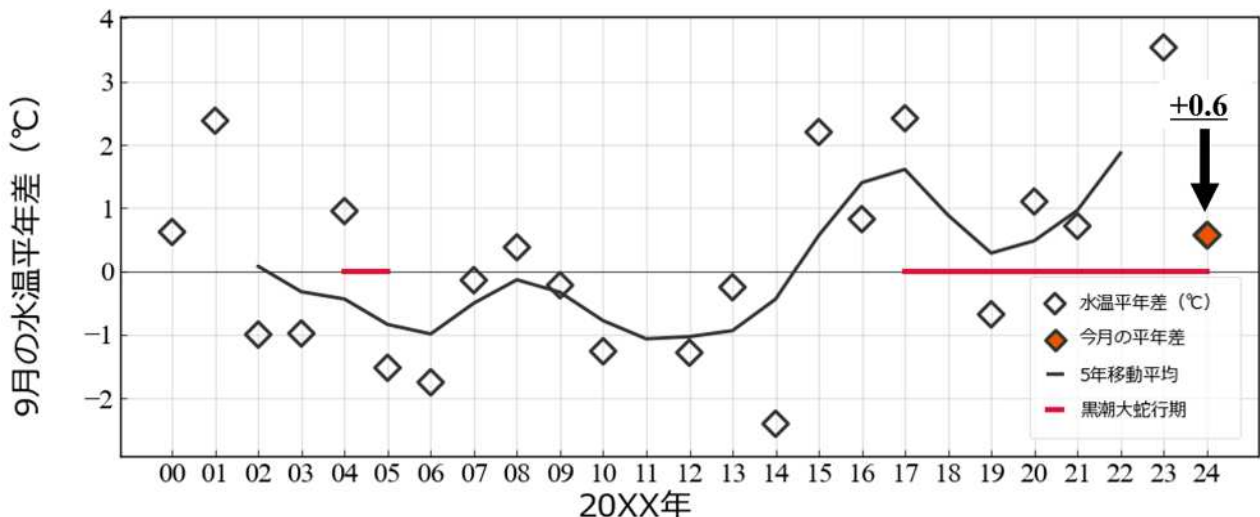


図2 沖合域の水温 (A4点、A12点、A19点の水深200mの平均)

2 イワシ類

(1) シラス

しらす連合会の9月の出漁は、26日の1日のみで、1カ統あたりの1日の平均漁獲量は、25カゴであった(図3)。

カタクチシラスの大きさは、伊勢湾内は2.5~3.9cm主体で2.1cm未満の小型個体もわずかに確認された。渥美外海では2.1~2.5cm主体で内湾のシラスに比べ小さい傾向にあった(図4)。

9月27日の伊勢湾内の漁場は、野間沖に形成され、漁場付近の表層のクロロフィルa濃度は周囲に比べて高かった(図5)。また、漁場に近い観測点(P-8,10,13)の表層~水深10m付近のクロロフィルa濃度が高く、河川からの栄養流入により、植物プランクトンが増殖し、動物プランクトンも増え、シラスの餌料環境が良好となったことが推察された。

9月末時点のシラスの月計漁獲量(45トン)は、前年同月(335トン)および平年(過去10年平均471トン)を下回った(表3)。

9月の卵・稚仔魚調査結果から、卵は、伊勢湾北部の三重県側と三河湾で多く、仔魚は伊勢湾北部と漁場が形成された野間沖で非常に多く採集された。外海では、卵、仔魚共に遠州灘の岸寄りにわずかに採集され、静岡県寄りやや多く採集された(図6)。

伊勢湾の卵採集数(116個)は、昨年(1,216個)及び平年(385個)を下回り、仔魚採集数(200尾)は、昨年(466尾)を下回り、平年(156尾)を上回った。

内湾の卵稚仔調査で卵が多く採集された伊勢湾北部三重県側や、三河湾の佐久島南東部は、ぱっち網の漁場となっており、成魚や小型の未成魚も確認されている。産卵場や未成魚の生育場としても重要な海域であることがうかがえる。

9月に入ると、愛知外海漁協(数カ統)が遠州灘沿岸で操業可能になる規模の漁場が形成され始めた。人工衛星のクロロフィルa濃度の分布状況や、9月の卵稚仔調査結果から、

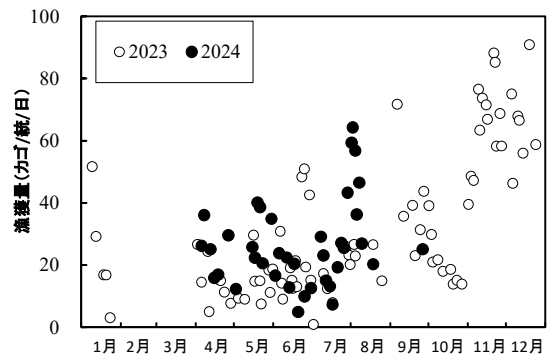


図3 シラス CPUE の推移

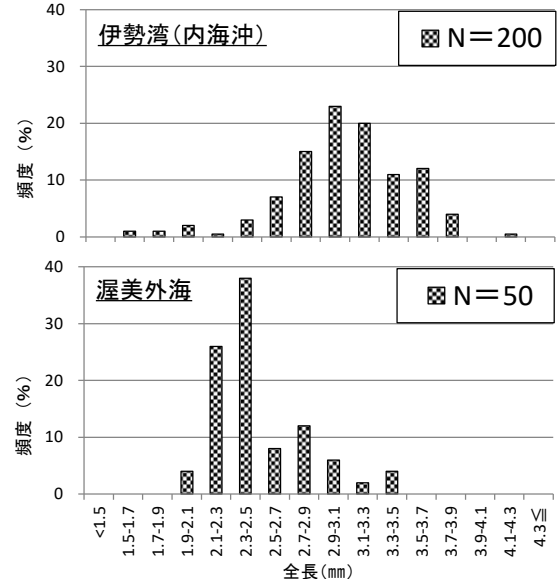


図4 カタクチシラスの全長組成

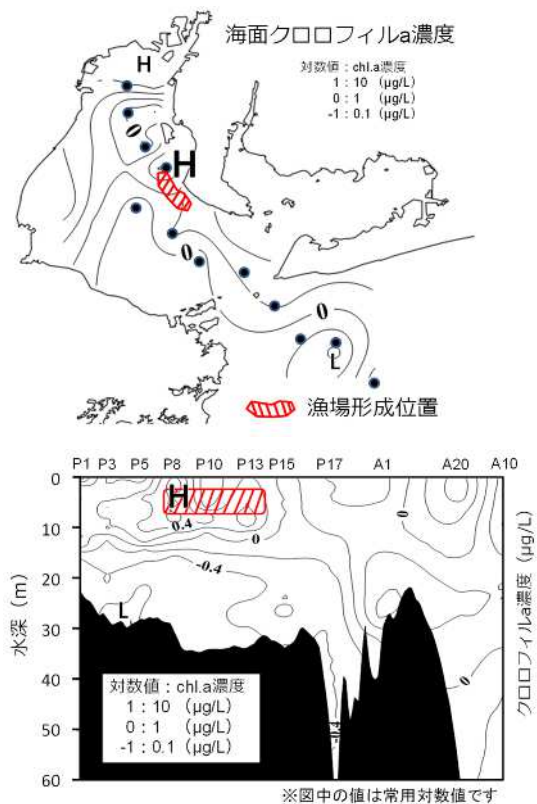


図5 漁場形成位置とクロロフィルa濃度の関係(9月25, 26, 27日)
(上: 水平分布、下: 鉛直分布)

湾内から湾外へ流出した内湾系水が、8月までは志摩半島方向へ流出して遠州灘沿岸での漁場形成を阻害していたが、遠州灘方向へも流れ始めたことが復調した要因として考えられる。

昨年11月はシラスが豊漁だったが、その要因として、内湾で産卵が継続していること、大量出水等がなく気象・海象が比較的安定したこと、内湾の餌環境が良く仔魚の生残が良かったこと、内湾の水温の低下と暖かい外海水との境界が湾口部に形成され、卵・仔魚の湾外への流出が抑えられたこと、湾口部に小型のシラスが分布しており、湾外からのシラスの補給もあったことが考察されている。今年も産卵は継続しており、これらの条件が満たされれば、今後、内湾または外海に漁場が形成される可能性は十分にあると思われる。

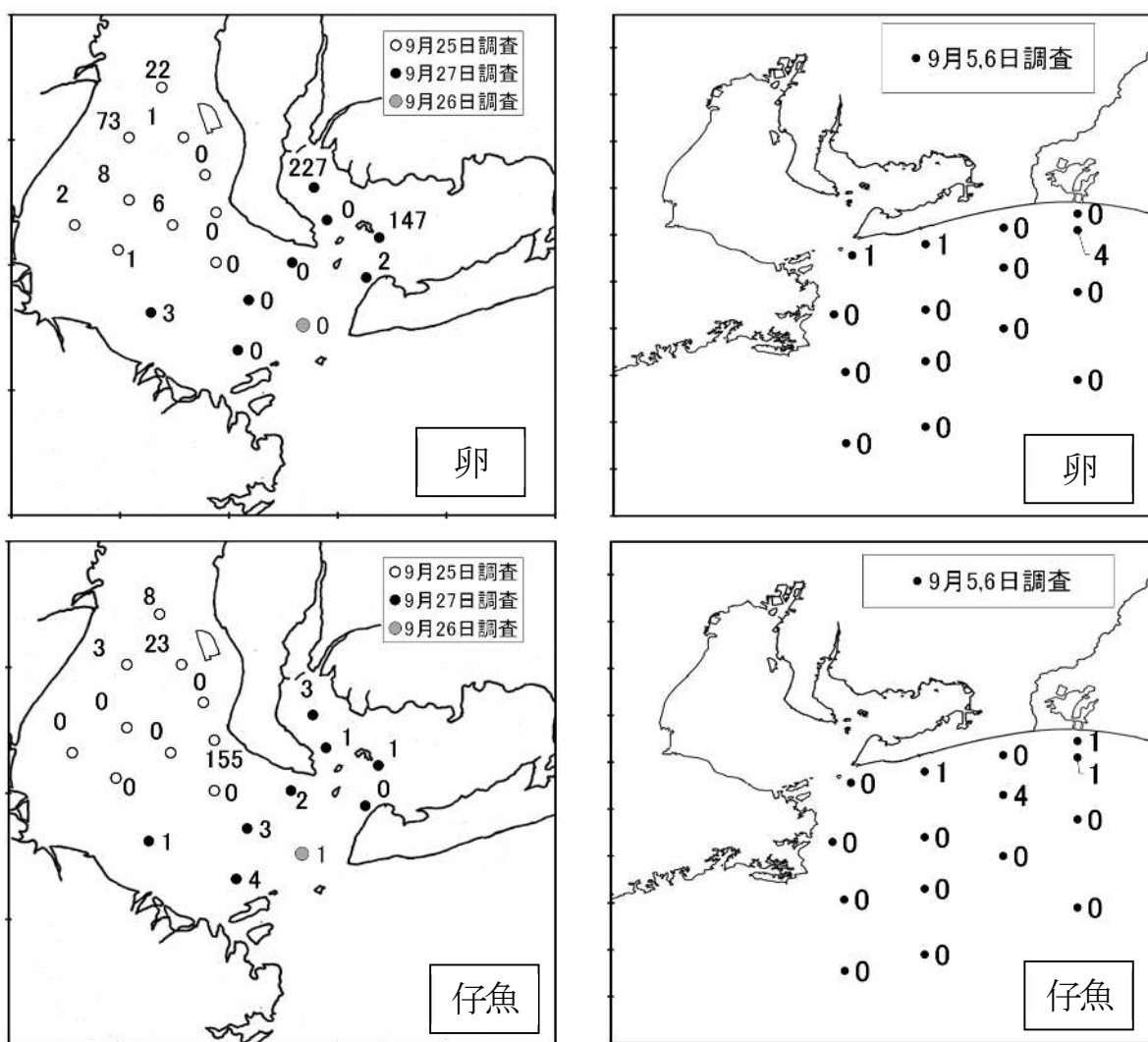


図6 改良型ノルパックネットによるカタクチイワシの卵・仔魚の総採集数 (2024年9月25,26,27日(内湾)、9月5,6日(外海))

(2) マイワシ・カタクチイワシ (未成魚・成魚)

ぱっち網は2～3回/週の頻度で出漁し、9月の出漁日数は11日であった。漁場は、上旬は伊良湖岬～中電沖 (マイワシ) や内海沖 (マイワシとカタクチ)、中旬は空港島や三河湾西側 (カタクチイワシ)、下旬は佐久島周辺 (カタクチイワシ) に形成された。

なお、ぱっち網漁業者は、資源保護のために自主的に操業時間の短縮 (10時まで、25日以降は11時まで) を行っている。

1日1カ統あたりの平均漁獲量は、カタクチイワシは1～9トンで概ね5トンで推移、マイワシは0～6トンで、混獲程度の低水準となっている (図7、8)。

マイワシの平均体長は緩やかに増加し、2019年の同時期と同程度の大きさであった (図9)。

カタクチイワシの漁獲物を体長から季節発生群に分けると、7月の漁獲尾数は他の月の4倍以上と多く、6月は前年秋生まれ、7月以降は冬生まれが主に漁獲されていた。昨年11、12月にシラスが豊漁であったことから、その生き残りが今年のカタクチイワシ資源に寄与していることが考えられる。一方で、今年の春生まれは7月以降漁獲対象となっているが、春シラスの不漁もあり、漁獲尾数は少ない。漁獲量が増えないのは、春生まれの資源加入が少ないためと推察される (図10)。

カタクチイワシの生殖腺熟度指数 KG は、9月は3～4で維持されていたが、季節的に今後も産卵水準は低下していくと思われる (図11)。

9月の月計漁獲量は、カタクチイワシ (1,252 トン) は昨年 (574 トン) を上回り、平年 (1,882 トン) を下回り、マイワシ (348 トン) は昨年 (4,195 トン) 及び平年 (2,877 トン) を下回った (表4、5)。

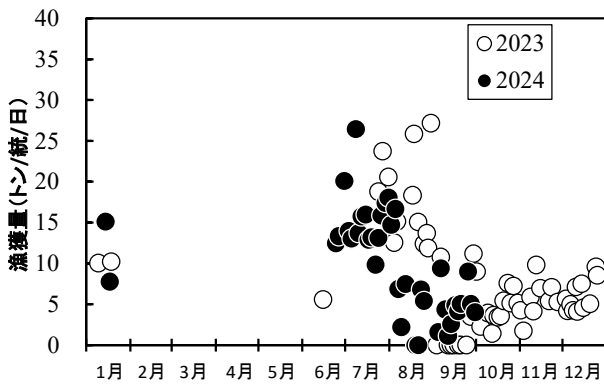


図7 カタクチイワシのCPUEの推移

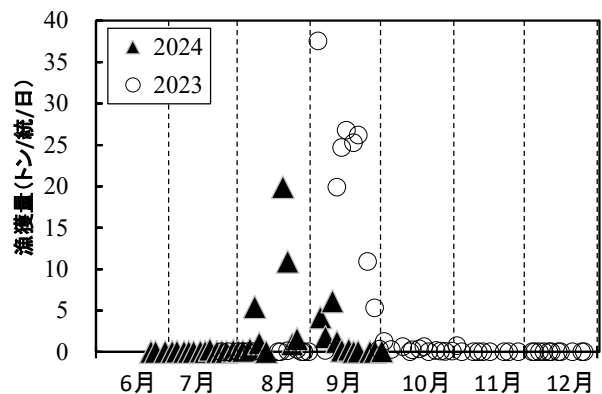


図8 マイワシのCPUEの推移

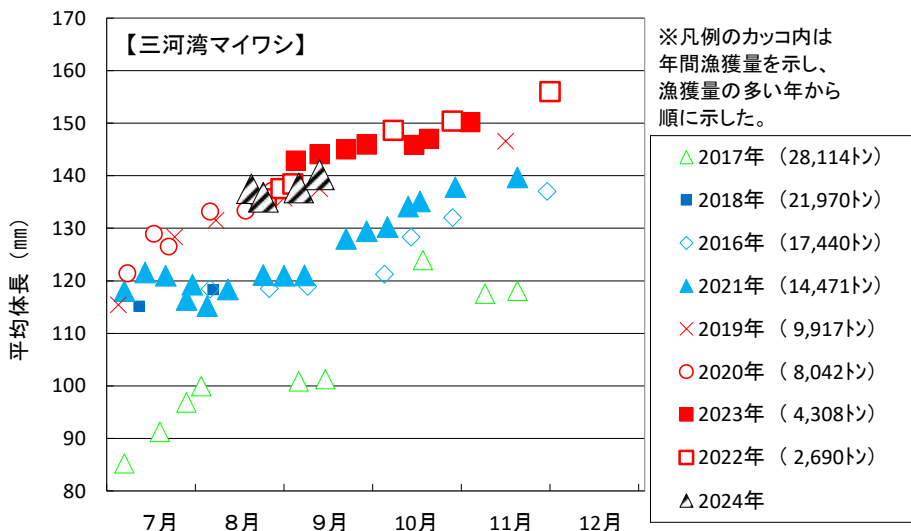


図9 三河湾で漁獲されたマイワシの平均体長の推移

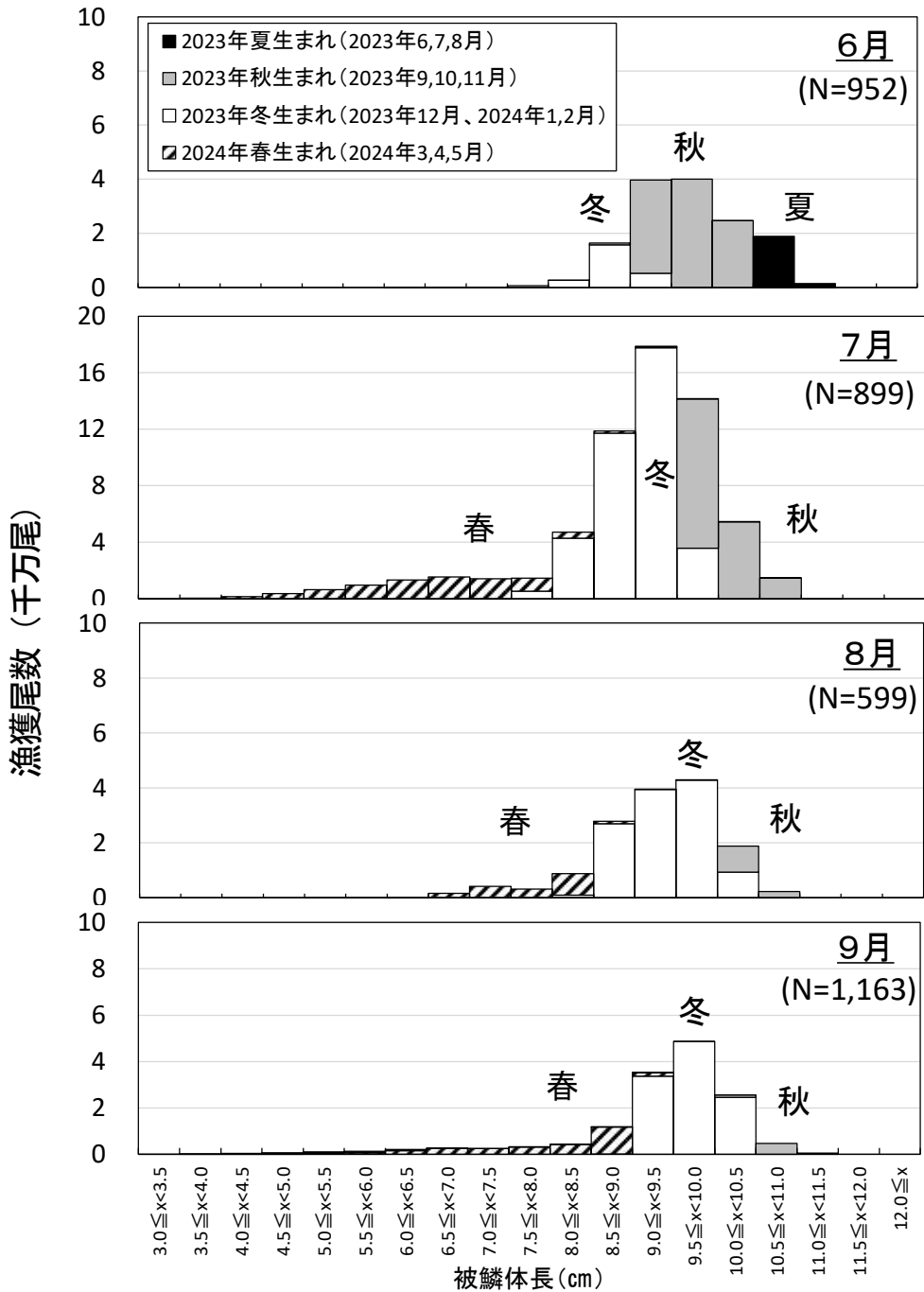


図10 カタクチイワシの季節発生群ごとの漁獲尾数の推移

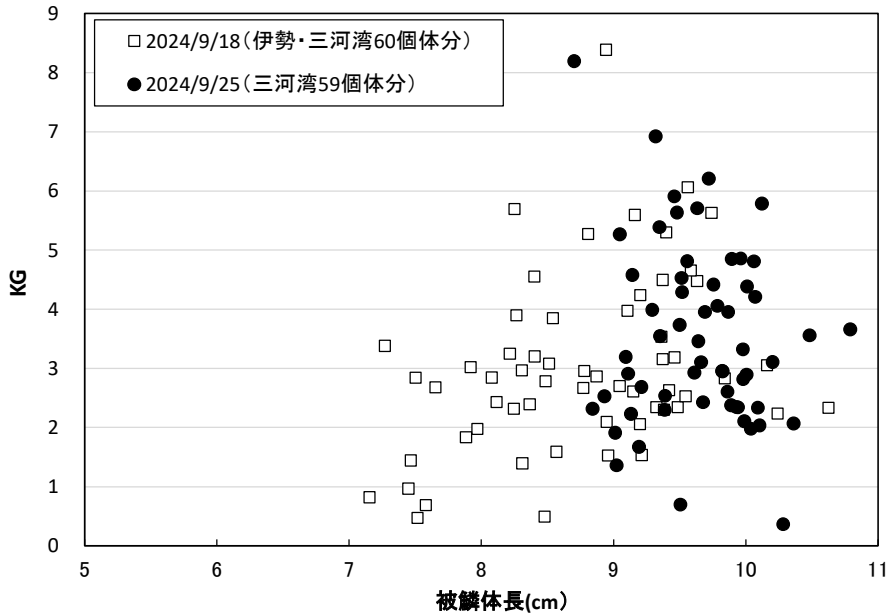


図11 カタクチイワシの生殖腺熟度指数 KG

※2022年9月の調査定点は3定点。

表1 渥美外海のカタクチイワシ卵採集数(15点合計)

※2024年4月の調査定点は2定点。

(単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	欠測	0	2	208	14	147	178	11	4	0	0	0	564
2018	0	0	72	102	25	144	154	0	欠測	0	0	0	497
2019	0	0	62	39	57	29	97	58	54	0	0	0	396
2020	0	0	0	1	0	116	30	89	11	13	3	0	263
2021	0	0	24	46	25	186	88	25	17	0	0	0	411
2022	0	欠測	23	1	203	212	247	351	5	0	0	0	1,042
2023	0	0	0	1	3	82	130	12	89	欠測	5	0	322
2024	0	欠測	0	0	欠測	214	117	4	6				341
10年平均	0	0	104	153	68	107	118	68	48	25	1	1	686

表2 伊勢湾のカタクチイワシ卵採集数(15点合計)

(単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2015	-	-	-	1	191	160	30	1,305	61	132	768	-	2,648
2016	-	-	-	0	1,329	1,236	748	1,508	132	248	108	-	5,309
2017	-	-	-	0	17	29	215	494	2	1	1	-	759
2018	-	-	-	0	438	65	360	70	欠測	41	62	-	1,036
2019	-	-	-	0	70	2,518	2,593	627	52	37	118	-	6,015
2020	-	-	-	506	6,126	4,561	1,442	4,698	735	211	6	-	18,285
2021	-	-	-	2,985	1,227	2,258	1,765	2,607	746	212	25	-	11,825
2022	-	-	-	559	1,624	756	2,522	2,575	435	462	336	-	9,269
2023	-	-	-	0	132	3,256	2,004	5,798	1,216	欠測	29	-	12,435
2024	-	-	-	4,252	4,893	4,120	371	1,069	116				14,821
10年平均	-	-	-	406	1,166	1,506	1,241	1,985	385	184	174	-	6,991

表3 愛知県シラス類漁獲量

※9月30日現在速報値

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	5	0	0	885	2,247	0	11	38	31	172	85	104	3,579
2018	0	0	97	957	1,917	9	66	379	553	797	295	660	5,730
2019	0	7	389	676	1,472	1,349	884	1,119	1,514	45	9	302	7,767
2020	0	10	219	428	658	1,629	590	1,933	131	493	148	492	6,731
2021	0	2	101	1,295	631	676	392	48	1,098	1,397	743	317	6,700
2022	0	1	3	253	1,150	831	9	407	82	158	4	335	3,232
2023	145	0	10	194	243	595	169	135	335	245	1,239	646	3,956
2024	4	1	22	272	380	206	284	432	45				1,646
10年平均	16	2	92	747	1,509	711	281	525	471	739	687	467	6,248

表4 愛知県カタクチイワシ漁獲量

※9月30日現在速報値

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	15	21	62	23	194	3,039	2,659	1,725	1,038	340	583	346	10,045
2018	0.3	7	0	12	33	2,795	1,654	945	1,294	149	13	40	6,943
2019	172	38	32	2	0	1,339	4,128	1,692	1,432	2,564	803	515	12,717
2020	4	35	27	0	0	0	2,698	2,115	1,620	2,924	1,920	2,117	13,462
2021	302	48	0	0	0	0	691	1,062	719	766	1,674	1,593	6,853
2022	505	0	0	0	0	0	532	2,453	3,462	1,118	1,055	1,044	10,169
2023	81	0	0	0	0	13	1,501	3,691	574	1,310	895	883	8,949
2024	160	0	0	0	0	1,102	4,600	1,297	1,252				8,411
10年平均	184	37	14	82	135	1,628	2,994	2,208	1,882	1,293	1,068	875	12,400

表5 愛知県マイワシ漁獲量

※9月30日現在速報値

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	0	0	0	0	181	1,380	6,258	5,153	4,497	5,445	3,311	1,888	28,114
2018	61	0	0	0	0	2,605	5,555	4,999	4,701	2,944	1,103	2	21,970
2019	210	40	4	0	0	1,311	2,634	3,886	1,417	152	256	7	9,917
2020	0	0	0	0	0	0	3,502	1,995	2,351	174	15	5	8,042
2021	0	0	0	0	0	0	6,128	4,125	3,476	703	35	5	14,471
2022	0	0	0	0	0	0	2	1,666	179	791	52	0.15	2,690
2023	0	0	0	0	0	0	0	10	4,195	86	18	0	4,308
2024	0	0	0	0	0	0	18	944	348				1,310
10年平均	42	12	0	0	23	596	2,661	3,074	2,877	1,759	800	333	12,177